



ゆうメール

MAC NEWS

2025年 1月号

自分が自分の主人公 世界でひとつの自分をつくっていく責任者

～『日本の教育界の国宝』が残した言葉とは？～



恥ずかしながら昨年の12月からスタートした育脳寺子屋のウェブラジオですが、ありがたいことに保護者さんや生徒達から「聞きましたよ！」「緊張してましたね！」「また聞きますね！」など沢山のお声を頂戴しました。月1回の放送ですが、これからも頑張ります笑

そのラジオ番組の中で「読書のススメ」というお勧めの本を紹介するコーナーがあるのですが、今回は第1回放送で紹介した本について書かせて頂きます。

「自分を育てるのは自分」

この本を書かれたのは東井義男さんという方で、生徒に問いかけるような「いのちの授業」が評価され、生前数多くの賞を受賞された日本の教育界の国宝と言われた方です。(教員になられてから79歳で亡くなるまでに著書及び共著約140冊、論文・実践記録等掲載雑誌は約900冊を残されています)

実は毎年この本を・・・

元々は読書が大の苦手だった私ですが、塾長として生徒たちを指導する立場になってからは月2～3冊は本を読むようになりました。

その中の一冊にあったのが東井義雄先生が書かれた『自分を育てるのは自分』という題名の本でした。

最初は「MACの理念と同じ考えの題名だな・・・」程度の気持ちで手に取った1冊でしたが、内容的にはなかなか考えさせられるもので、「あ、これはMACに通う子に読ませたいな・・・」と感じたのを覚えています。

ネタバレになってしまいますが、実は高校受験を終えてMACを卒業する中3生には、毎年この本に手紙を添えて送っています。(手紙の一部には「この本を読むことをMACからの最後の宿題とします」という一文を添えています)

東井先生が講演会で 10代に語った言葉は？

『京都大学の名誉教授で東先生という方がおられます。この先生は、「猫は生まれてすぐ人が育てても猫に育つ。犬は生まれてすぐ人が育てても犬に育つ。」

ところが、人間は人間の子に生まれたからといって、人間に育つとは決まっていない。今日の学会の定説では、約5000通りの可能性を持って生まれてくるとされている」と仰っています。

この話を聞いて、数十年前の狼が赤ん坊をさらって行って、洞窟の中で育てた話を思い出しました。

推定8歳ばかりの子でしたが、真っ暗闇の中でも目がらんらんと光って、何十メートル先にあるエサが鼻で分かる。エサがあることが分かる。と四つん這いで飛んで行って手を使わずに貪り食う、夜中の一定の時間になると遠吠えをする・・・。

人間に生まれても、狼が狼の暮らしの中で育てると人間の子も狼になる可能性さえ持っているのですね。

みなさんが今から狼になろうと思ってももう遅いですがね。しかしみなさんは今でも獣になら簡単になれます。「なまけもの」という獣にならね。

先日本屋さんで、20円のお釣りをもらうところを200円もらいました。ちゃんとお釣りをもらいなおしましたが、その時に一瞬、「儲けたぞ、相手が間違えたのだから言わなあかん。言わなあかんけど素直にもろといてもいいやないか」

と思ってしまった。5000通りの可能性の中には犯罪者や死刑囚になる可能性だってあるんです。私の中にも、皆さんの中にも泥棒になる可能性がちゃんとあるんです。

みなさんの人生はこれから始まるわけですが、ちょうどみなさんの頃にはいろんな欲望や衝動がこみ上げてくる。そんなみなさんのまわりにはいろんな鯛(タイ)が泳いどる。どんな鯛かといえば、「もうちょっと寝とりタイ」「もうちょっとテレビが見タイ」「もうちょっとマンガが読みタイ」という鯛です。

近頃日本も豊かになって、鯛が異常繁殖し、お父さんお母さんがみんなをかわいがるつもりで一生懸命鯛にエサやりしてくれるので、知らん間に鯛が大きくなって主人公を食べてしまっている。

5000通りの可能性の中で素晴らしい可能性を活かすためにはね、

「タイ」に負けんよう、自律の力をどうつけるかということ頑張ってくださいね。

人間には大きい人と、小さい人がいる。体の大きい小さいと違いますよ。人の痛みを自分の痛みのように感じられる人、それが大きい人なんです。逆に自分のことしか考えない人は小さい人です。

自分の思い通りにならないとわざと人を困らせるような人もいます。自分の問題なのに他人事のように投げやりになるようなこと、これを小さいと言う。どうかそういう小さいことが恥ずかしいことだと考えて頂きたいですね。

5000通りの可能性の中からね、どんな自分を取り出していか。皆さん一人一人がその責任者なんですよ。みなさん人はこんなたくさんいるように思えて、自分は一人しかいない。

世界でただ一人の私を、どんな私に仕上げていくか。その責任者が私であり、皆さん一人ひとりなんです。』

(東井先生の講演会の内容より一部抜粋し、まとめてあります)

勉強会で思わぬ出会いが

「教育関係者の集まる勉強会があるんやけど一緒に参加しない？」という友人からのお誘いを受け、数年前の夏に三重で行われた1泊2日の泊まりがけの勉強会に参加することとなりました。

ある現役の小学校の先生が発起

人で、全国から40名ほどが集まったの大勉強会でした。中には教育関係者ではない方もおられましたが、現役の学校の先生や、教員を定年退職し、今は先生の指導にあたられている方も多数参加されていました。

この勉強会は『未来ある子供たちに何を伝えていくべきか』、『教育とはいったい何なのか』といった教育の本質を考える内容が中心だったので、非常に満足のいく有意義な時間となりました。

・・・そこで思いもよらない出会いが。

なんとこの勉強会の発起人であるN先生は、東井先生が最後に担任をされたクラスの生徒の一人だったらしいのです！しかも参加者の中には、東井先生が校長をされていた時に、教員として同じ学校に勤務されていたY先生もいらっしゃったのです。

そんなこととは知らずに参加したので、あまりの偶然にゾクゾクとしたのを覚えています。

勉強会後の懇親会で、私が塾をしていて卒業生には毎年東井先生の本を送っていることを話したら、N先生は目にうっすら涙を浮かべながら大変喜んでおられました。

後に分かりましたが、この本の編集をされたのは何とN先生と先述のY先生でした！

今思うと、勉強会に参加したのは何だか偶然ではなく必然だったような気がします。

(東井義男「自分を育てるのは自分」)